



太田部昔話
きつねの話

いびりやきの
げんしちろう

昔は、
鬼石や坂原もたいへん
さびしい所があり、
ひるまでもうす暗い所
がたくさんありました。
ですから、

しぜんと
きつねもいて、
まわりの山に
入ると日あたりの
いい岩かげなどに、きつねの
穴があつちにも二つちにも
ありましたし、
おいなり様の
まつかなとりいが
ずいぶん多かつた
ようです。





「といつしたなんだお、もつすぐ暗へなるとこつり。」
と、馬をひいて娘に話しかけました。

「まんばまでござきの田で行くといふりますが、
ひとまつで足をいために困つてゐるんです。

すいません、木田の郷の入口あじびやかうじやか。

馬でひれませんか。」

娘はつたまつて足をすり

さすり言いました。

しんせつなおじこさん

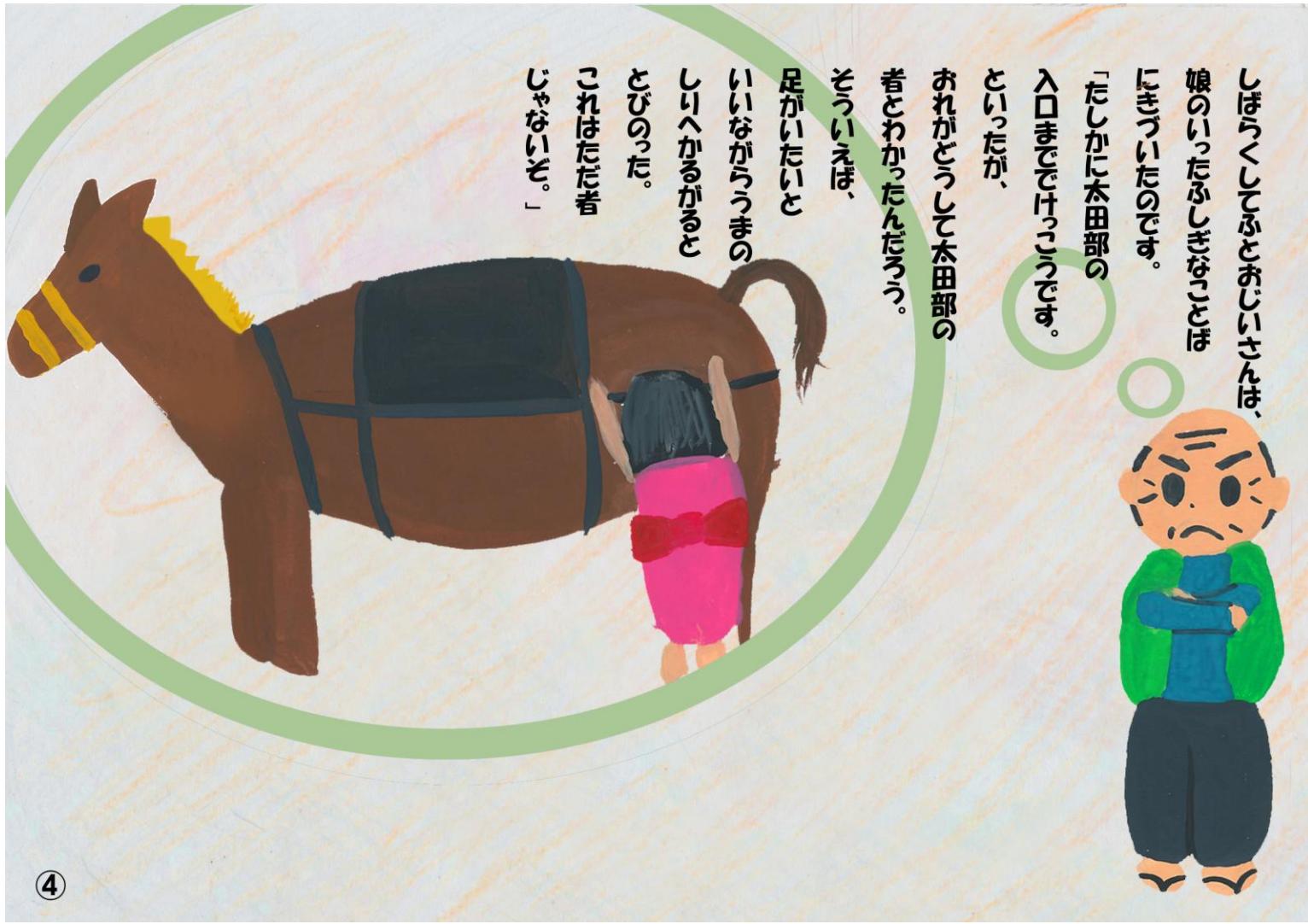
ふびんに思ひ

馬のじこのは、

あたずさをなさい

ながら道をいそぎまじ





その後を見ると、
つす暗くまわりが
ほんやりみえるの
娘のすがただけが
はっきりと見えたのです。
きものすわったおじいちゃんは、

馬をとめると、

「これがうは道も
悪くゆれるしな、
おひてまた足を
いたあてはたいてへんだ。」

そう言いながら用心
深い娘のむさぼりことなわい、
足や体をぐるぐる
あせりにじじい馬への
しきりへへりつけました。





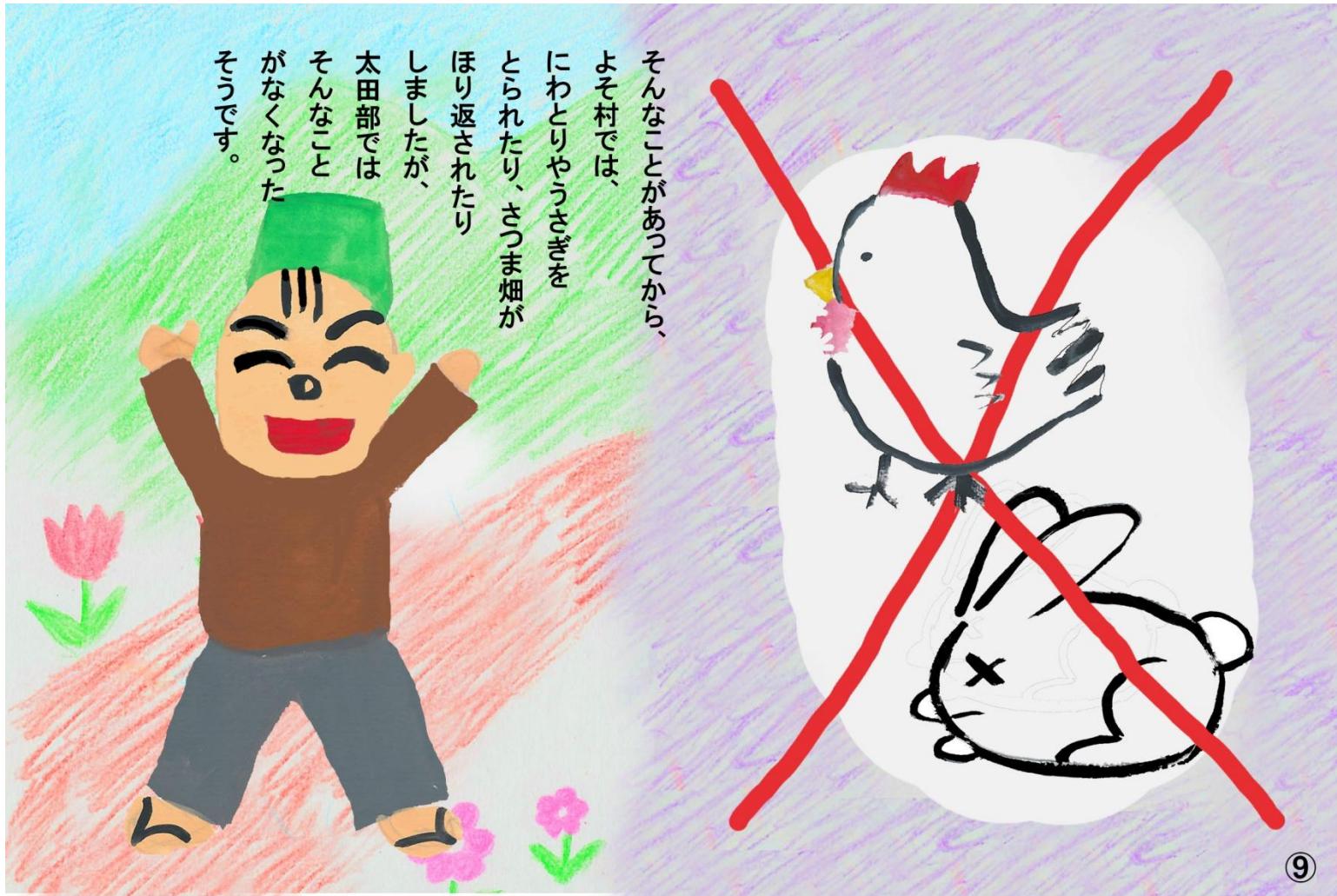
家につくと、おばあさんに
てつたわせ、娘をひきおうし、
竹かごづくりのかすを
あつめさせ、
その竹べうに
火をつけました。
けむりはもうもうと
あがりおすすめのかうだを
つつんで
しました。



けむりが大きくなれると、
中からまっしぐな
ものが飛び出しました。
「(うそつかな)やあると、
ほんとうに飛び焼きに
しちまつだ。」
おじこさんは、
逃げてこへりつねて
おおひなりしましました。



「こどもが山へ登りました。
竹のむすびをひいて、
尾をひいたりかえます。
（）」



おしまい